

病院紹介



内視鏡カメラを更新しました

皆さんは、「胃痛・胃もたれ・胸やけ・のどの違和感・黒い便」といった代表的な症状がある場合は胃カメラ検査、また、「慢性的な便秘や下痢、便が細くなったなどの便通異常・血便・慢性の腹痛」といった症状がある場合は大腸カメラ検査を推奨されていることをご存じですか？

国保京丹波町病院では昨年12月に最新鋭の内視鏡カメラシステムへ更新しました。これにより撮影画質が飛躍的に向上し、病気の早期発見にさらに有効な検査機器となりました。また、更新したシステムで使用する2本の経鼻用胃カメラ（鼻から挿入するカメラ）は、昨年11月30日に発売されたばかりのもの

です。これまで経鼻用胃カメラは1本のみで対応してきたことにより、「口から」「鼻から」か、ご希望通りの選択にお応えできないことがありましたが、今回からご希望に応えやすくなります。特に、口からのカメラを挿入する時の嘔吐反射（吐きそうになること）を懸念されている方は、一般的に嘔吐反射が少ない経鼻用胃カメラを検討されてみてはいかがでしょうか。

検査については診察時や検診申込時に、お気軽にご相談ください。

国保京丹波町病院 TEL86-0220



いきいき健康術



「エピペン®」って知ってます？

「エピペン®」とは、アナフィラキシーといわれる全身性の強いアレルギー反応を今までに起こしたことがある人に処方される薬で、血圧低下や呼吸困難などのアナフィラキシー症状が現れたときに自己注射して医師の治療を受けるまでの間、症状の進行を一時的に緩和するための補助治療薬です。

「エピペン®」は注射器にアドレナリンという薬剤があらかじめ充填されたキット製剤です。アドレナリンには心臓の働きを強め末梢血管を収縮させることで血圧を上昇させる作用があり、気管支を拡張する作用や粘膜の浮腫を改善する作用もあるため、「エピペン®」によるアドレナリンの投与は即効性と有効性の高い治療です。

日本におけるアナフィラキシーによる死亡者数は2019年には62人でしたが、大人ではハチ毒や薬剤、子どもでは食物が原因となることが多いため、「エピペン®」は2003年に養蜂業者や林業関係者を対象に初めて認可され、2005年以降は食物アレルギー患者にも適応されています。また、当初は1本1万円の自費購入でしたが、2011年9月8日以降保険適応になっています。



「エピペン®」投与のタイミングとして、初期症状が出現してからショック症状に陥る前が最も理想的ですが、ショック症状が出現してからは15分以内に投与することが重要です。誤って投与した場合、ほてり感や心悸亢進（心臓がどきどきすること）などの症状が起こりますが、あくまで一時的であり15分程度で元に戻るため、アナフィラキシーの重篤な症状が確認された場合はためらわずに使用してください。

国保京丹波町病院和知診療所
しょうばやし さとし
庄林 智 所長

～健幸～生き活きウェルネス

コーナー

京丹波町にお住いの皆さんが健やかに幸せに「健幸」で暮らせるように・・・。

国保京丹波町病院では、病気になる前の「予防医療」を大切に

病気を患ってからもその人なりに幸せに暮らせるよう「地域包括ケアシステム」を充実し町民一人ひとりの健幸Wellness—ウェルネス—を目指しています。

院長先生の



Wellnessコラム

かき た ひで はる
垣田 秀治院長



年度末を迎え、進学される方、就職される方、または退職されて新たな人生を歩まれる方など、忙しくされている方も多いと思います。

コロナ禍での3年目の春、第2類相当とされていた新型コロナウイルス感染症も5月には第5類相当に変更するとのことですが、5類になったからといってウイルスの感染力が弱くなるわけではありませんし、変異株の出現にも注意を払う必要があります。臨機応変な感染対策は今後も続けていただ

かなければならないと思います。

また、今は花粉症の季節です。今までマスクを着けていたことで花粉症の症状も軽くすんでいた方も、マスクを外すことで花粉症に悩むことにもなりかねません。

マスクをつけることは、今は世間でも普通に受け入れられていることですし、今しばらく花粉症の人はマスクの助けを借りるのもいいかもしれませんね。